



V1.5 プラグインリファレンス

VST RACK ELEMENTS

目次

VST Rack Elementsについて	2
マニュアルの構成	2
ご注意	2
プラグインリスト	3
Steinberg	3
Delayプラグイン	4
MonoDelay	4
StereoDelay	5
Dynamicsプラグイン	6
Maximizer	6
EQプラグイン	7
GEQ-30	7
Reverbプラグイン	9
Roomworks SE	9
Toolsプラグイン	10
Test Generator	10

VST Rack Elementsについて

- VST Rack Elementsは、ディレイ、マキシマイザー、リバーブなど、多彩なVSTプラグインエフェクトの使用による音声処理を実現する、MacとWindowsコンピューター用のプラグインホストソフトウェアです。NuendoやCubaseで定評のあるSteinberg社のオーディオエンジンを採用し、サウンドエンジニアに高品位かつ安定したプラグイン環境を提供します。
- VST Rack Elementsには、Steinberg社のデジタルオーディオワークステーションに搭載されて評価を得ているSteinberg社の定番VSTプラグインを豊富にバンドルしており、新しくVSTプラグインを購入することなく、高品位なエフェクトを使用することができます。

マニュアルの構成

- **VST Rack Elements V1.5 インストールガイド (PDF)**
VST Rack Elements V1.5のインストール方法について説明しています。
- **VST Rack Elements V1.5 ユーザーガイド (PDF/HTML)**
設定や操作に必要なすべての項目を説明しています。
- **VST Rack Elements V1.5 プラグインリファレンス (本書)**
プラグインのパラメーターの詳細を説明しています。

ご注意

- 本ソフトウェアおよび本書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- 本ソフトウェアおよび本書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- SteinbergおよびVSTはSteinberg Media Technologies GmbH(以下「Steinberg」)の登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書は発行時点での最新仕様で説明しています。最新版はヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

プラグインリスト

Steinberg



SteinbergプラグインはVST Rackでのみ使用できます。

Delay	MonoDelay
	StereoDelay
Dynamics	Maximizer
EQ	GEQ-30
Reverb	Roomworks SE
Tools	TestGenerator

Delayプラグイン

MonoDelay

モノラルディレイエフェクトです。ディレイラインは、テンポベースのディレイタイム、または自由にディレイタイムを設定して使用できます。



LO FILTER

エフェクト信号のフィードバックループに影響し、低域をフィルタリングできます。ノブの下のボタンでオン/オフを切り替えます。

HI FILTER

エフェクト信号のフィードバックループに影響し、高域をフィルタリングできます。ノブの下のボタンでオン/オフを切り替えます。

DELAY

ミリ秒単位でディレイタイムを設定します。

SYNC

テンポ同期のオン/オフを切り替えます。

FEEDBACK

ディレイ入力に戻す信号の量を設定します。設定値が高いほど、繰り返しの数が多くなります。

MIX

ドライ信号とウェット信号のレベルバランスを設定します。このエフェクトを Send エフェクトとして使用する場合、センドレベルでドライ音とエフェクト音のバランスを調節できるため、このパラメーター値は最大値に設定します。

StereoDelay

StereoDelay は、2 つの独立したディレイエフェクトです。テンポベースで、または自由にディレイタイムを設定して使用できます。



このプラグインは、ステレオラックでのみ機能します。



FEEDBACK

ディレイの繰り返しの数を設定します。

DELAY

ミリ秒単位でディレイタイムを設定します。

SYNC

それぞれのディレイのテンポ同期をオンまたはオフにします。

MIX

ドライ信号とウェット信号のレベルバランスを設定します。このエフェクトを Send エフェクトとして使用する場合、センドレベルでドライ音とエフェクト音のバランスを調節できるため、このパラメーター値は最大値に設定します。

LO FILTER

エフェクト信号のフィードバックループに影響し、低域をフィルタリングできます。ノブの下のボタンでオン/オフを切り替えます。

PAN

ステレオの定位を設定します。

HI FILTER

エフェクト信号のフィードバックループに影響し、高域をフィルタリングできます。ノブの下のボタンでオン/オフを切り替えます。

Dynamicsプラグイン

Maximizer

Maximizer は、クリッピングを防ぎながらオーディオ素材のラウドネスを上げます。このプラグインには、「Classic」と「Modern」の2つのモードがあり、それぞれが異なったアルゴリズムとパラメーターを提供します。



CLASSIC

「Classic」モードでは、このプラグインの前のバージョンと同じ既存のアルゴリズムが提供されています。このモードは、あらゆるスタイルの音楽に適しています。

MODERN

「Modern」モードでは、「Classic」モードよりラウドネスを増加するアルゴリズムが提供されています。このモードは、音圧を必要とする音楽に特に適しています。また、「Modern」モードでは、以下のリリース部分を制御する追加設定も提供されています。

- ・「Release」は、全体的なリリースタイムを設定します。
- ・「Recover」は、リリース部分の開始位置付近でより速く信号を復帰します。

OPTIMIZE

信号のラウドネスを設定します。

MIX

ドライ信号とウェット信号のレベルバランスを設定します。

OUTPUT

最大出力レベルを設定します。

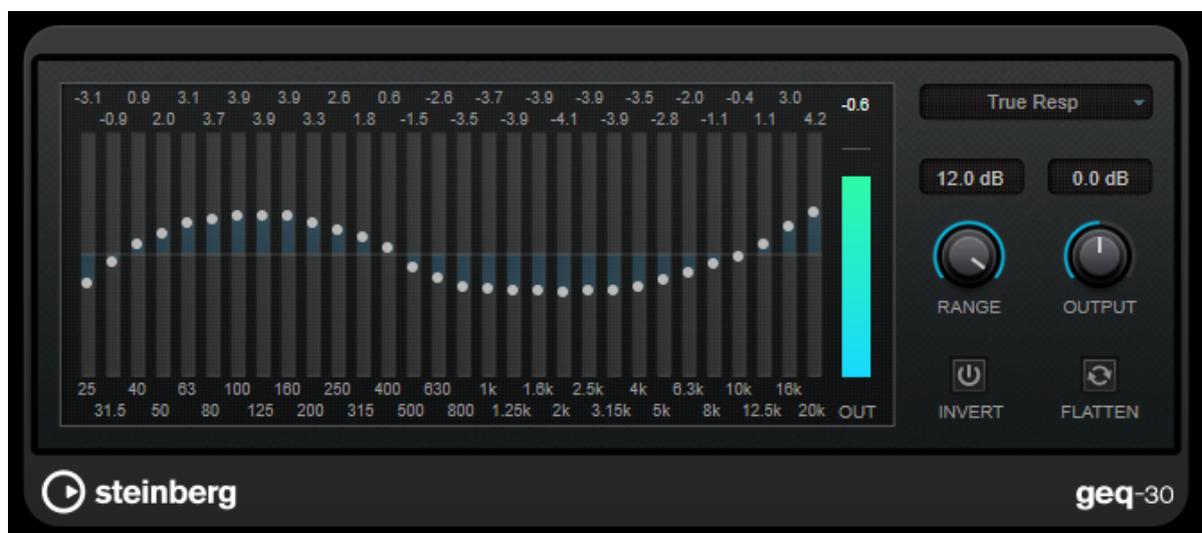
SOFT CLIP

このボタンをオンにすると、Maximizer は信号のリミッティングをゆるやかに始めます。同時に、真空管アンプを使用したような暖かいサウンド特性をオーディオ素材に加えます。

EQプラグイン

GEQ-30

グラフィックイコライザーです。GEQ-30の利用できる周波数帯域の数は30です。



各帯域幅を最大 12dB まで減衰または増幅できるため、周波数特性を細かくコントロールできます。また、いくつかのプリセットモードが準備されており、GEQ-30 のサウンドに個性を付けることができます。メインディスプレイで周波数特性カーブを描くには、マウスでクリックしてドラッグします。ディスプレイでドラッグする前に、各スライダをクリックする必要があります。ウィンドウの一番下には、各周波数帯域が Hz 単位で表示されます。ディスプレイの一番上には、減衰/増幅する量が dB 単位で表示されます。

RANGE

設定したカーブによって元の信号から減衰または増幅する量を調節できます。

OUTPUT

イコライザー全体のゲインを設定します。

INVERT

現在の周波数特性カーブの位相を反転します。

FLATTEN

すべての周波数帯域を 0dB にリセットします。

EQ モード

右上のモードポップアップメニューでは、イコライザー処理した出力にさまざまな個性や特色を与えるEQ モードを選択できます。

True Response

正確な周波数特性を使用するシリアルフィルターです。

Digital Standard

最後の帯域のレゾナンスがサンプリングレートに基づきます。

Classic

レスポンスがゲインの設定値に正確に従わないクラシックパラレルフィルターです。

VariableQ

レゾナンスがゲインの量に基づくパラレルフィルターです。

ConstQ asym

ゲイン増幅時にレゾナンスが上がり、ゲイン減衰時にレゾナンスが下がるパラレルフィルターです。

ConstQ sym

最初の帯域と最後の帯域のレゾナンスがサンプリングレートに基づくパラレルフィルターです。

Resonant

いずれかの帯域のゲインが上がると隣接する帯域のゲインが下がるシリアルフィルターです。

Reverbプラグイン

Roomworks SE

RoomWorks SE は、RoomWorks プラグインの簡易版です。RoomWorks SE は、高品質の残響音を作り出せませんが、RoomWorks に比べて使用できるパラメーターが少なく、CPU パワーも必要としません。



PRE-DELAY

リバーブが効き始めるまでの時間を設定します。初期反射音が聴こえるまでの時間を長くすると、広い空間をシミュレートできます。

REVERB TIME

残響時間を秒単位で設定できます。

DIFFUSION

後部残響音の特性をコントロールします。値を上げると拡散音が増え、なめらかなサウンドになります。値を下げるとサウンドがクリアになります。

LOW LEVEL

低域のディケイタイムを調節します。通常の室内環境の残響では、中域よりも高域と低域の方が早く消えます。レベルのパーセンテージを下げると、低域が消えるまでの時間が短くなります。100% を超える値を設定すると、中域よりも低域が消えるまでの時間の方が長くなります。

HIGH LEVEL

高域のディケイタイムを調節します。通常の室内環境の残響では、中域よりも高域と低域の方が早く消えます。レベルのパーセンテージを下げると、高域が消えるまでの時間が短くなります。100% を超える値を設定すると、中域よりも高域が消えるまでの時間の方が長くなります。

MIX

ドライ信号とウェット信号のレベルバランスを設定します。

Toolsプラグイン

Test Generator

このプラグインでは、オーディオ信号を生成できます。



このファイルは、さまざまな目的に使用できます。

- ・ オーディオ装置の仕様のテスト
- ・ テープレコーダーの調整など、さまざまな測定
- ・ 信号の処理方法のテスト
- ・ 教育目的

TestGenerator は、正弦波やのこぎり波などの多くの基本的な波形や、さまざまな種類のノイズを生成できる波形ジェネレーターをベースにしています。さらに、生成する信号の周波数と振幅を設定できます。

波形とノイズのセクション

波形ジェネレーターで生成する信号の基本形を設定できます。4 つの基本的な波形 (サイン波、三角波、矩形波、のこぎり波) と 3 つのノイズ (ホワイトノイズ、ピンクノイズ、ブラウンノイズ) から選択できます。

周波数セクション

生成する信号の周波数を設定できます。周波数は Hz またはノート値のいずれかで設定できます。ノート値を入力した場合、周波数が自動的に Hz に変わります。たとえば、ノート値 A3 を入力すると、周波数が 440Hz に設定されます。ノート値を入力する際、セントオフセット (「A5 -23」、 「C4 +49」 など) を入力できます。



ノート値とセントオフセットの間には、半角スペースを入れてください。スペースを入れないと、セントオフセットは反映されません。

ゲインセクション

信号の振幅を設定できます。値が大きいほど信号が強くなります。プリセット値のいずれかを選択するか、スライダーで OFF ~ 0dB の間の値を設定できます。

